

第三章 39) 田嶋勉氏について

1934年10月渡伯、熊本県元下益城郡東砥用村大字甲佐平298生、県立矢部農業学校中退、昭和9年(1934年)、16歳の折、藤崎二三四氏呼寄に依り渡伯。藤崎氏は東京植民地傘下のバクリイ耕地で1933年頃綿作等営む、その1年後に田嶋氏は渡伯しており、当時の藤崎氏(義兄)を手助けする。ルジタニア地方時代に青年会々長を務める時の昭和15年(1940年)紀元2千6百年11月10日、リベイロン・プレート市領事官舎にて天皇皇后両陛下の御眞影拝賀式を擧げて、次いで祝賀式の通知が在リベイロン・プレート帝国総領事館分館主任副領事、福岡章氏から田嶋ルジタニア青年会々長に宛におくられる。ジャボチカーバルに移転して藤崎氏が開業したホテル業などにも手助けしている。特に剣道の腕は確かなものである。後年1965年に帰化。

現在、戦前渡伯者中随一健在でこの近辺(東京植民地の人々)。長い間ジャカレイ肥料創設者で同県人、中尾熊喜氏(初期の同県人移民者を数多く故郷帰りを實現、支援した人)の信賴厚く、さらに農業と直接関係の肥料販売でサン・パウロはもとより、パラナ、ミナス州まで移民者を来訪しており多くの人々と接触があった。東京植民地出身者の移転先で現役中は殆ど交流があった数少ない現在の生き字引的人です。当年米寿の88歳。



ルジタニア地方青年会剣道部と赤尾先生
田嶋勉氏と剣士たち 1939年6月、中列右2番目が田嶋勉氏